



2021年4月

学術資料

SARS-CoV-2 の英国型変異株 (20I/501Y.V1) および南アフリカ型変異株 (20H/501Y.V2) に対する Panbio™ COVID-19 Antigen ラピッドテスト、ID NOW™ 新型コロナウイルス2019 の性能への影響について

新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) の新しい変異株が、英国および南アフリカで確認されました¹⁾。

これらの変異株は、ゲノムに複数の変異を持つものとして定義されていますが、主にスパイクタンパク質の RNA 配列に変異があることが明らかになっています。南アフリカ型変異株は最近確認されたばかりであり、弊社では検出の確認試験はまだ行っておりません。英国型変異株に対しては、NHS (イギリス国民保険サービス) の評価により、Panbio™ COVID-19 Antigen ラピッドテストを含む、評価したすべての COVID-19 迅速抗原検査で、英国変異株を含む検体を検出したことが確認されています²⁾。

弊社では、検査の性能に影響を与える可能性のある変異がないか、配列データベースを定期的に調査しています。ID NOW™ 新型コロナウイルス2019 は、スパイクタンパク質遺伝子ではなく、RNA 依存性 RNA ポリメラーゼ (RdRp) 遺伝子を検出します。RdRp 遺伝子領域が選択されたのは、その配列保存性の高さによるものです。英国型変異株および南アフリカ型変異株のゲノム配列を分析した結果、ID NOW™ 新型コロナウイルス2019 の標的である RdRp 遺伝子領域には変異がないことが明らかになっているため、検出性能に影響はないと考えられます。また、Panbio™ COVID-19 Antigen ラピッドテストは、スパイクタンパク質ではなくヌクレオカプシドタンパク質を検出するため、スパイクタンパク質の変異による影響は受けないと考えられます。

弊社は、今後も SARS-CoV-2 の変異に関する世界的な状況を注視し、弊社の COVID-19 関連製品に影響する最新情報を提供していきます。

<参考資料>

- 1) 米国疾患予防管理センター (CDC) ウェブサイト、2020年1月28日付 “Emerging SARS-CoV-2 Variants” <https://www.cdc.gov/coronavirus/2019-ncov/more/science-and-research/scientific-brief-emerging-variants.html>
- 2) GOV.UK ウェブサイト、2020年12月23日付 “Guidance:SARS-CoV-2 lateral flow antigen tests: evaluation of VUI-202012/01” <https://www.gov.uk/government/publications/sars-cov-2-lateral-flow-antigen-tests-evaluation-of-vui-20201201/sars-cov-2-lateral-flow-antigen-tests-evaluation-of-vui-20201201>

<製品情報に関するお問い合わせ先>

アボット ダイアグノスティクス メディカル株式会社
〒163-0807 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル7階
お客様相談室
フリーダイヤル：0120-1874-86
Eメール：japan.techsupport@abbott.com